

# 登山月報



会長に就任して .....	2
UIAAによる国際山岳事故データ交換の調印式 .....	3
氷雪技術研修会、主任検定員養成講習会、上級指導員養成講習会報告 ..	4
全日本クライミングユース選手権ボルダリング競技大会 2015 .....	5
<b>新連載</b> 「山の日」制定記念—ふるさとの山に登ろう— .....	6
第79回 Mountain World .....	7
トピックス、新刊図書紹介 .....	8
平成27年度定時総会報告 .....	9
平成26年度収支決算報告 .....	10
理事会報告 .....	12
JMA、寄贈図書、編集後記 .....	13

# 会長に就任して

会長 八木原 瓘明

このたび神崎前会長の後任会長をお受けいたしました。20年ほど前の常務理事就任以来、歴代の会長のご苦勞も近くで見て参りましたので、本当に務まるのか、場面、場面で決断できるのかと不安もありますが精一杯務めて参ります。

公益社団法人になって2年が過ぎました。それまでと変わったかと言われれば殆ど変わっていません。

私自身も関わっておりながら、決めることの出来なかった組織や事業の見直しについては恥じ入る思いで反省もしています。難しさも承知していますが、もう待ったなしの状況まで追い詰められていると思います。もっと多くの人を巻き込んで積極的に進め、「日山協も変わった」と言われてみたい、言わせてみたいと思います。

社会が目まぐるしく変わってゆく中で登山界はそれに対応出来ているであろうか？ 対応して行けるだろうかと考えると怪しいと感じざるを得ません。その意味では私などは古い頭で、少し齢を取りすぎているようにも思いますが、知識や才能のある皆さんの頭や手をお借りしてやり遂げ、役員、委員の若返りも進めたいと思います。

日山協を強くし、活性化するにはなんと言ってもそれぞれの加盟山岳連盟、協会の活性・強化がなされなくてはなりません。現在加盟山岳会がひとケタの岳連が9岳連あります。もちろん数が多ければ良いわけではありませんが、数は力にもなります。

具体的には事業見直しなどとも関連しますが日山協直轄事業を地方岳連へ移したいと思います（こういう意見は日山協の全国代表者会議などでも出ています）。必ず人が足りない、人材が無いなどと言われると思いますが、日山協が人も金も出して支援し、軌道に乗せることで岳連の仲間、会員を増やしてもらおう。嘆き諦めてばかりでは先へ進めません。

役員も会員の皆さんの誰もが感じていること、思っていることはたくさんあると思います。そして何をやるにも人も金も要ります。山岳共済（保険）も重要です。日山協にとっては遭難対策問題だけではありませ

ん。活動の元手です。これこそスケールメリットの問題です。加入者の増加はそのままサービスの向上につながります。

追い上げられ、追い越されるのを手を拱いて見ているわけには行きません。より良い内容にし、より多い登山者に知ってもらい、加入者を増やし保険料も下げる。これも会員のみではなく多くの会員外の登山者に働きかけ、喜んでもらうことこそが大切で私ども公益社団法人の責務でもあらうと思います。

登山とクライミングを両輪として活動する日山協としてはこれまで以上に強靱に推進してゆきます。クライミングは2020年東京五輪の有力な種目となっています。目標がかなうまで運動を進めます。ご期待ください。

まとまりがありませんが、就任の挨拶とします。どうぞよろしくお願い致します。



## ◇ やぎはら くにあき 八木原 瓘明

1946年11月27日、群馬県前橋市生まれ、68歳。中学時代から登山にのめり込み、地元の上毛三山や谷川岳へ足繁く通う。高校卒業後、群馬ミヤマ山岳会に入会して谷川岳一ノ倉沢衝立岩正面壁ミヤマルルート初登攀などで活躍。1971年からヒマラヤへ通いだし、その数は14回に及ぶ。1975年にダウラギリIV峰、1981年ヤルン・カン登頂の他、ダウラギリI峰南東稜初登攀、冬季アンナプルI峰南壁初登攀、冬季エベレスト南西壁初登攀と3つの世界初を記録。一方で雪男探しに出かけたり、ブラマプトラ河をラフティングするようなロマンチストであり、冒険家でもある。ヒマラヤ登山隊のオルガナイザーとして名声高く、映画『植村直己物語』や来春公開される映画『エヴェレスト神々の山嶺』の撮影隊々長も務める。群馬県山岳連盟会長、山田昇ヒマラヤ資料館長、谷川岳山岳資料館長を務める。家族は妻と長女。

## UIAAによる国際山岳事故データ交換の調印式

日山協主催のUIAA国際山岳連盟 mountaineering Commission 登山委員会が、大阪府高槻市関西大学高岳館において、本年4月10日より11日の2日間で開催された。UIAA側からの参加者には、Pierre Humblet（委員長）、Denis Hélène（UIAA書記長）、Steve Long（TSP委員長）他4名、日本側からは調印式に参加するため日山協神崎会長、他5名、日本勤労者山岳連盟川嶋事務局長、JRO中嶋副会長、他1名の参加があった。

今回のUIAA登山委員会の主な目的は、UIAAとして、初めて、山岳事故データの交換の協定に調印したことである。

UIAAによる国際山岳事故データ交換のために、試験期間を設定し、以下に示す2つの契約書を作成した。

### (1)山岳事故データベース計画のガバナンス

Governance of the Mountain Accident Database Project (Testing Periode)

### (2)UIAAとパートナー団体との山岳事故データ交換のための協定

Co-Operation Agreement for Exchanging Mountain Accident Data Between the Union Internationale des Associations d'Alpinisme and a Partner Organization (Testing Periods)

2つの契約書は、青山UIAA委員が起案し、法関係スペシャリストグループLEWYGのイギリス判事Anthony Rich氏とPierre委員長と共に、5年間を要し



調印式

て作成したものである。UIAAにおいても、この種の契約書は初めてのため、登山委員会、UIAA理事会などで、契約書の内容について審議し、承認された。

国際山岳事故データの交換の対象となった我が国の事故データは、既に、日山協、労山、JROの山岳3団体で構築してきたデータベースから、UIAAフォーマットに該当する部分を抽出したものである。国際情報比較と個人情報保護を念頭に開発されたUIAAフォーマット項目量は、山岳3団体のフォーマット項目の僅か2割程度であるが、発生場所の緯度・経度、高度や、目撃者の有無など、3団体側の不足項目も多いが、今後の検討事項とした。

以上、各3団体では、データ交換上の問題点ならびに契約書内容を詳細に検討した。その結果、将来我が国が安全登山を目指していく上で、国際山岳事故情報が重要な役割を果たすとの結論に至った。

そして、UIAA登山委員会では、調査項目の多い日本の山岳3団体事故データ調査結果を信頼すべきものとして、最初の山岳事故データ交換対象団体とみなし、今回の山岳事故データ交換協定を締結した。

調印式はUIAAにおいてMountaineering Commission meeting highlights として、その風景がウェブに紹介されている

<http://www.theuiaa.org/news-240-Mountaineering-Commission-meeting-highlights.html>

(記 遭対委員会副委員長 青山千彰)



**モンゴル**へ行かれるなら  
風の旅行社名古屋にお任せ下さい

オトゴンテンゲル登山、フラワーハイキング等、乗馬だけでない魅力がモンゴルにはあります。ご友人同士、ご夫婦、山岳会の合宿等、あなただけのオリジナルプランをご提案いたします。是非お気軽にご相談下さい。

株式会社  
**風の旅行社名古屋**

愛知県知事登録旅行業第3-1367号 日本旅行業協会正会員  
総合旅行業務取扱管理者 古谷 朋之  
〒460-0008 名古屋市中区栄3-7-12 サカエ東栄ビル6F

TEL 0120-987-321 FAX 052-228-6232 e-mail nagoya@kaze-travel.co.jp

2つの台湾五岳、台湾最高峰と第2の高峰を登頂する充実の山旅

**台湾の高峰2座登頂、玉山と雪山 7日間**

発着地 東京・大阪・名古屋・福岡  
 出発日 9/21(月)・10/4(日)・10/11(日)・10/25(日)・11/1(日)・11/4(水)  
 旅行代金 ¥298,000～¥346,000

※燃油サーチャージ(2015年5月20日現在:目安約5,000円～7,000円)が別途必要です。  
 旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/ボックJ保証会員

**ALPINE TOUR サービス株式会社**

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海ビル4階 ☎03-3503-1911  
 大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557  
 e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

平成27年4月25日（土）～26日（日）に富士山で標記研修会・講習会が行われた。

今回は研修14名、A級主任検定2名、上級指導員養成講習8名、講師7名、山梨県スタッフ4名の計35名での開催となった。参加者は昨年に引き続き、地元山梨県の学生5名の参加と東北、中部、関東からも広く参加していただいた。

ゴールデンウィーク間際にスバルラインが開通し、アプローチの時間が短縮され、講習時間を確保することができたが、直前に温暖な気候が続き、例年になく雪が解けていて講習に困るか懸念されたが、3班に分けて適当な講習場所を確保することが出来た。今回も引き続き改良型スタンディングアックスビレー（SAB）等の検証を含めた講習を実施した。

以下に参加者代表の感想を掲載します。

（記：指導委員会 野村善弥）



制動技術、スタンディングアックスビレー、制動確保法、自己脱出などについて。

講習：救出、搬送（ネット搬送、ツェルト搬送）について。

受講、検定を受けて痛感した事は、自分の技術、理論の不足でした。SAB制動確保から仮固定、本固定、自己脱出までの一連の操作がスムーズに出来ない、この操作は何故必要なのか、の『何故』の理解が足りない、ロープ結束技術で、その場での適切な結束方法がすぐにできない、確保時の右手の向き、制動確保時の左腕の動かし方で、堤信夫講師に指導を受け、ダイニーマスリングでのブリッジプルーゾックは適さないと永井豊講師に指導を受けましたが、実践技術、の不足を痛感致しました。

交流会では全国の山仲間の話が聞けて、楽しい時間でした。当多治見山岳会元会員で先輩の山田桂氏が昭和41年3月富士山雪上研修中（当研修会の前身）滑落事故で死亡して居ります。今回の研修で先輩に御供養が出来ました事を感謝致します。

## 氷雪技術研修会受講感想文

岐阜岳連 多治見山岳会 核田治三郎

4月24,25日、富士山佐藤小屋周辺にて受講致しました。日山協指導常任委員、山梨岳連、講師、スタッフ、佐藤小屋家族の方々には、大変お世話になり誠に有難う御座いました。

氷雪技術に関する講習、検定の内容は主に以下の通りでした。

**机上講習：**上級指導員に求められる役割、技術、検定内容について。

**講習・検定：**雪上支点の作り方、プラトリーの作り方、スノーバー、土嚢袋、小枝他、雪上歩行技術、アイゼン歩行技術、ピッケル使用法、滑落停止法、初期



# 全日本クライミングユース選手権ボルダリング競技大会2015

5月16日、17日、鳥取県立倉吉体育文化会館で、北は北海道会から南は九州鹿児島県まで、36都道府県から189名の選手の参加で開催した。なお決勝は、男子で16都府県、女子で15都府県、合わせると、22都府県の選手が熱き戦いを繰り広げ、男女4カテゴリーで8名の初代チャンピオンが誕生した。

予選は8課題を最大5回までアテンプトできるというコンテスト方式で行われた。これはヨーロッパユース選手権大会では以前から導入され、日山協主催のボルダリング競技大会では初めてとなる、競技方式での開催であった。

女子ユースBで70分、その他のカテゴリーで90分という競技時間の中で競われ、一撃で終了する選手、時間をかけじっくりと課題を獲得する選手など一喜一憂の中での戦いだった。集中力と持久力も求められる競技ともなった。

この競技方式は、選手がどの課題から攻め、課題を獲得するなどで順位を容易にするため、審判員がスマートホンやタブレットを活用し、激しく入れ替わる順位の一括処理する成績処理システムが導入された。これにより選手達はスクリーンに映し出された結果速報を見ながら競技を行えるため、非常に緊張感のあるクライミングが随所に見られ、さらには家族、観客の声援のボルテージも上がり一層大会を盛り上げた。

2日目は決勝が行われ、選手達は予選のフラッシュとは違いオンサイト方式で、緊張感を持って決勝へ臨んだ。

ユースCは男子の西田秀聖、女子の伊藤ふたばが予選8課題及び決勝3課題を全て1撃で完登するという圧巻のクライミングで完全優勝した。ユースBの男子は中村颯人が2課題を1撃、女子の中村真緒は3課題



伊藤ふたば選手

植崎 智亜選手

を見事1撃して優勝した。女子ユースAと女子ジュニアは予選・決勝ともに同一の課題で競技を行いユースAは田嶋あいか、苦しみながらもただ一人だけ全完登し、先日のボルダリグ・ジャパンカップに続き優勝した。ジュニアは野中生萌が予選から決勝まで全課題を1撃する圧巻の登りで優勝した。

男子ユースAでは2名が2完登し、アテンプト差で原田海が緒方良行に勝利し優勝した。

男子ジュニアでは1・2課題目まで1位だった清水裕登を植崎智亜が最終3課題目で残り時間の無くなった最後のトライで見事に完登し逆転優勝した。本大会の上位入賞者は、「世界ユース選手権ボルダリング競技」に出場することとなり、世界での活躍を期待したい。

	男子	女子
ジュニア	植崎 智亜	野中 生萌
ユースA	原田 海	田嶋あいか
ユースB	中村 颯人	中村 真緒
ユースC	西田 秀聖	伊藤ふたば

今大会は、鳥取県山岳協会創立50周年記念事業として主管し開催された。今後、次世代を担うユースクライマーのパフォーマンスの期待に応える競技会の開催が望まれる。

なお、大会に先立ち開催された開会式には、京才昭常務理事、平井伸治鳥取県知事、石田耕太郎倉吉市長をはじめ多くの関係者の出席もとに催され、大会終了翌日に、鳥取県知事へ、神崎忠男日山協会長、大西一俊鳥取県山岳協会長が表敬訪問した。

(記 鳥取県山岳協会 安井博志)



競技会場

## 「山の日」制定記念

—ふるさとの山に登ろう—

神奈川県・蛭ヶ岳 (1,673m)

神奈川県の山と言えば、丹沢山地です。県の北西部から西部にかけてあるその山地は、最高峰の蛭ヶ岳（標高1,673m）を筆頭に連なり、幾多の沢と溪谷を抱いて、自然からの水の恵みを宿しています。

丹沢山地はその山麓部を含んで、昭和40年3月25日に丹沢大山国定公園に指定され、今年で50年を迎えました。低山の割に急峻な地形で、山腹には沢や滝が多くみられることから、沢登りにも多くの愛好家が訪れています。塔ノ岳から檜洞丸にかけての稜線沿いを中心とする標高約800m以上の地域にはブナ林が多く残っており、これより標高の低い地域は二次林やスギ・ヒノキの人工林となっており恰好の尾根歩きが楽しめます。地理的に首都圏に位置することから、登山等を目的に、年間約280万人が訪れています。

一方、近年の地球環境の変化から、丹沢にも深刻な環境問題が提起されてきました。例えば、稜線付近のブナ林の衰退、生息数は3,000頭ともいわれる増えすぎたシカ問題、トイレや登山道荒廃などへの一因となるオーバーユーズ問題、手入れ不足の森林や農地が増えた里山の過疎化問題などです。これに対応するため、神奈川県では、1999年に策定の「丹沢大山保全計画」、更に2006年の「第1期丹沢大山自然再生計画」、2012年から「第2期丹沢大山自然再生計画」を策定し、荒廃する山岳自然に長期的な取り組みが続けられてきました。

神奈川県山岳連盟では、これに少しでも寄与しようと、「ふるさとの森林再生事業」や「里山森林整備事業」を行っています。前者では、ニノ塔付近の財産区林の使用許可を受け、平成21年度から崩壊地に植樹を実施しています。当初は、秋植えが生育に良いと指導を受け実施しましたが、発芽はありませんでした。2年目も同じ結果でした。3年目から春植えに変え、植穴も凍結の心配がないので浅くし100本を植栽しました。90%以上の活着率でした。鹿の食害も有りますので、苗木1本毎にネットを掛けています。26年度は参加者の増加に合わせて200本の苗を植付け順調に生育しています。27年度は場所を拡大して実施する計画です。この植栽を通して、自然の厳しさに打ち勝って丈が10倍近くに成長した苗木を見て、一層の元気を与えてくれております。また、後者では、丹沢山地の東端にある宮ヶ瀬湖の湖岸林で、神奈川県が水源林として



蛭ヶ岳

買い上げた森林の一部約8haを、10年間借り受け、水源涵養機能の高い健全な森林整備を実施しています。育ちすぎた広葉樹を伐採して整理しています。ヤマビルが沢山いるので6月から10月までは、作業は休止しています。伐採した木を早く土に返す目的で、伐採木を使ってシイタケやナメコ等の栽培をしています。これは、単なる森林整備に留まらず、自然の恵みを体感し、楽しんで活動を行おうとする試みです。

丹沢の麓の山道を歩きますと、大木の根元や岩盤の上などに小さな祠を見つけます。その地域のお守として「山ノ神」を祀っているのです。そこは、山里の人々が、自然の恵みや生活の無事を感謝し、山を大切にする思いを募らせる場所です。

山には、人を喜ばす、何かが存在していると思います。神奈川県の一部で、林業関係者の間で山の神は年3回、1月、5月、9月の17日に、山仕事は休みにして、それぞれの地域の祠等にお参りし直会を行う風習がまだ残っています。コミュニケーションの場所として成果が上がっています。神奈川県山岳連盟の森林活動にもこのような風習を取り入れております。これは地元との交流会の折り、古老から聞いた風習を実践しているものです。

そんな丹沢の文化的な一面を感じて、「ふるさとの山」丹沢へ、是非とも訪れて頂くようお勧めする次第です。

(記 神奈川県山岳連盟 松隈豊)



蛭ヶ谷の森里山整備・山神祭り

## 第79回 Mountain World

### アラスカ・レヴェレーション山群

池田常道

アラスカ山脈の南西部に位置するレヴェレーション山群は1967年に初めて踏査された。デイヴィッド・ロバーツらの米ハーヴァード隊が52日間の滞在で6座に初登頂したほか、いくつかの試登も行った。当時13回のアラスカ経験のあったロバーツをして「最悪の天候だった」と嘆かせたが、その理由は海に近いからだ。山脈の末端にあるため、アラスカ湾と山群を隔てるのはツンドラ地帯だけ、湿った強風をまともに受けるロケーションなのだ。

標高は、日本でいえば八ヶ岳クラスで、最高峰ヘスパラスでも2996mしかない。9000ft(約2740m)以上のピークは13座、8000ft(約2440m)以上は35座を数える。デナリ(マッキンリー)を擁するアラスカ山脈中央部に比べれば山の標高は低いが、取り付きの氷河も相対的に低い位置にあるので、登攀標高差は900mから1500mと遜色ない。ただし、シーズンが深まると氷河上の積雪が解けて、スキー付の小型機が目標の近くに着陸できないこともある。登攀適期は3月から4月といったところだが、目標の位置と氷河の状態を的確に判定しておかないと、とんでもないことになる。悪天候に加えてもうひとつのネックは、基地となるアンカレジから224kmと遠いため、入・下山の飛行機代が割高になることだ。

\*

以上のような難点にもかかわらず、この山群は魅力的だ。最初の試登が行なわれてから50年近くになるが、この間大きな空白期間が2回あって、まだ登られていないピークや壁が残されているからだ。ロバーツの偵察・試登から14年の空白を置いた1981年に第2高峰のジェゼベル(2932m)とタイタニック・ピーク(2835m)が登られ、85年にはヘスパラスも頂を明け渡し、ロバーツが逃していたエンジェル(2824m)も登頂された。その後94年に9076ft峰(2766m)も登られたが、再び14年の空白期間が訪れた。

それに終止符を打ったのがアラスカ在住のクリント・ヘランダーだった。彼は2008年に初めてこの山群を訪れ、8385ft峰(2556m)に初登頂して、エクソダスと名付けた。以後、彼は毎年この地に足を運んで精

力的に登攀を繰り返し、アイス・ピラミッド(2819m)、マウソルス(2795m)、ゴルゴタ(2725m)、アポカリプス(2848m)に初登頂、昨年はタイタニック・ピーク西壁を初登攀した。

また、AAJ(アメリカン・アルパインジャーナル)で山群の概要を紹介する一方、問い合わせしてくるクライマーには快く情報を提供した。ジェローム・サリヴァンらのフランス隊がピラミッド・ピーク(2613m)に初登頂したのは、ヘランダーの情報によるところが大きい。この山は、ヘランダー自身が過去2回挑んで果たせなかった大物だった。

\*

そしてこの春、ヘランダーはジョン・ジラルドと、山群最後の9000ft級未踏峰に初登頂し、オベリスク(2836m)と名付けた。ルートは南西壁で、エモーショナル・アトロフィー(980m、M6WI5、A0)と命名した。英国のピート・グレアムとベン・シルヴェスターはピラミッド・ピークの中央クーロワール(未踏)を目指したが、目標の近くに着陸できず、ジェゼベル東壁の下に着陸した。やむなくこれを登って1200m、M6、WI6、A0の新ルート、ホール・オブ・バビロンと命名した。リック・ヴァンスとクリス・トーマスの米国ペアは、ピラミッド・ピークで狙っていたラインの氷が落ちていたためセーラフ(2603m)に変更、西壁を登って初登頂に成功した。ルートはマンダリン・マウンティ(700m、5.10、WI5+、A2)とした。このピークは1967年にロバーツが命名したものだが、彼の挑戦は失敗に終わっていた。

なお、レヴェレーション山群の登攀史については、『岳人』昨年8月号に書いた「最後のフロンティアレヴェレーション山群」をご覧ください。



(写真説明)  
山群最後の9000ft級未踏峰(2836m)。3月22日に初登頂されてオベリスクと命名された。クリント・ヘランダー撮影

## 全国「山の日」協議会総会

5月22日（金）に東京千代田区の衆議院第2議員会館「多目的会議室」で全国「山の日」協議会の総会が開催された。

総会には団体会員41名、個人会員13名が出席。尾形の司会で開会を宣言し、冒頭、谷垣禎一会長が、「山の日」祝日を広く国民に周知するために協力を願いたいと挨拶。定款の定めにより谷垣会長が議長となって議事に入った。

**第1号議案** 平成26年度事業報告（案）について

**第2号議案** 平成26年度決算報告（案）について

**第3号議案** 平成27年度事業計画（案）について

**第4号議案** 平成27年度収支予算（案）について

以上、何れの議案も提案通り、異議無く承認された。

ここで谷垣会長が公務のため議長を離れ、衛藤征士郎副会長が議長となり、議事を進めた。

**第5号議案** 法人化について

永続的な事業とするために「法人化」を目指すことが諮られ、承認された。

**第6号議案** プレ「山の日」記念全国大会開催について

本年8月11日に「山の日」記念事業を超党派「山の日」議員連盟と共催で大分県九重周辺で開催することを承認。

**第7号議案** 2016年「山の日」記念全国大会開催について

第1回「山の日」記念全国大会の開催地を上高地と定め、共催することを承認。

**第8号議案** 「山の日」の歌について、第9号議案「山の日」記念切手について

何れも実行委員会を構築して取り組むことを承認。

以上、全ての議事を終えて、閉会となった。

（記 尾形好雄）

## すぐそこにある遭難事故 奥多摩山岳救助隊員からの警鐘

金 邦夫 著

青梅警察署山岳救助隊に20年間勤務した元副隊長の金邦夫さん（68歳）が、奥多摩の山々で起きた遭難事故を解説する本書を出版した。山とレスキューにささげた半生の集大成として、救助活動の悲喜こもごもの経験などが綴られている。

奥多摩の山は比較的、標高が低く、「東京の山」として気軽に登れるイメージがあるが、年間100件ほどの遭難事故が起これ、死者・行方不明者は10名弱になる、との事。これは長野、富山、岐阜などの山岳遭難上位県に匹敵する件数である。

奥多摩での重大遭難事故の大半は、「道迷い」と「転・滑落」とのことで、「標高が低くても、100m転落すれば死亡するのは、高い山と同じだ」と警告する。

掲載された救助活動の事例を読むと、山の遭難事故は、まさしく本のタイトル通り「すぐそこにある」のが分かる。本書は、人の云うことに耳を傾けない高齢登山者に是非一読して頂き、あなたの勝手な遭難が、家族や救助隊をどれだけ悩ますか知って貰いたい。

金さんは、山形県小国町の出身で、高校時代から地元の飯豊・朝日連峰を跋涉。上京して警視庁に就職後、本格的に登山にのめり込み、警視庁山岳会「クライム・ド・モンテローザ」を設立。谷川岳をはじめ冬季クライミングに熱中し、ヨセミテやアルプス三大北壁などに挑戦されている。

四六版、262頁、定価1400円+税、2015年5月31日、発売元：東京新聞出版



### 〈ネパール大地震救援募金振込先〉

- みずほ銀行 渋谷支店 普通口座3382501  
口座名「公益社団法人日本山岳協会免税口」
- 郵便局の郵便振替払込用紙を使われる場合は、  
口座記号番号：00110-5-546693、加入者名：公益社団法人日本山岳協会  
（※通信欄に「ネパール大地震救援募金」とお書き下さい。住所、氏名、電話番号もご記入願います。）

- ①募金は1口2千円です。
- ②第1次募金期間：平成27年5月1日～10月31日

### 【連絡先】

公益社団法人 日本山岳協会  
〒150-8050  
東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育館内  
電話 03-3481-2396 FAX 03-3481-2395  
E-mail : info@jma-sangaku.or.jp  
H.P : http://www.jma-sangaku.or.jp



# 平成27年度定時総会報告

去る5月31日（日）に東京渋谷の岸記念体育会館で平成27年度定時総会が開催された。

総会に先立ち神崎会長より、以下の挨拶があった。

「平成26年度は赤字予算でのスタートであったが、黒字決算で締めることができた。これも偏に皆様のご協力のお陰であり、感謝したい。公益法人に移行して2年経ったが、日山協は何が変わったのか、と云われる。また、喫緊の課題解決のため4つのワーキング・グループを立ち上げて取り組んできたが、成果が現れていない。これらを思うと会長として責任を感じる。登山が多様化し、登山界も大きく変わろうとしている。日山協が登山界のリーダーシップをとっていくには、皆さんに、自信と誇りと責任を持って牽引して頂きたい。」と挨拶。

神崎会長の挨拶に続いて、定款第16条に定めるところにより、神崎会長が本会議の議長となり、定款第18条第1項に定める定足数の充足を確認して、本会議の開会を宣言した。

次いで、定款第20条第2項に基づき、議事録署名人を神崎議長及び安藤武典、仙石富英を選任して、議案の審議に入った。

## 議 事

- (1) **議案第1号** 平成26年度事業報告（案）について  
尾形専務理事が議案説明を行い、議案第1号は、異議無く賛成60、反対0で承認可決された。
- (2) **議案第2号** 平成26年度収支決算報告（案）について  
小野寺齊常務理事が議案説明を行い、その後、内藤順造監事より監査報告及び監査所見の報告があった。  
議案第2号は、異議無く賛成60、反対0で承認可決された。
- (3) **議案第3号** 定款の一部変更（案）について  
尾形専務理事が議案説明を行い、定款変更理由の質疑の後、議案第3号は、賛成60、反対0で承認可決された。
- (4) **議案第4号** 役員（理事・監事）の選任について  
議案第4号は、先ず理事候補者について一人ずつ個別に承認が諮られ、何れも賛成60、反対0で承認可決された。  
理事：八木原罔明、尾形好雄、國松嘉伸、高橋時夫、亀山健太郎、小野寺齊、西内博、仙石富英、森下健七郎、京才昭、水島彰治、瀧本健、中瀬和徳、相良

忠麿、北村憲彦、増山茂、小野倫夫、齋藤喜代志、小宮山稔、牧野治生、亀井正明、伊藤克己、大西一俊、峯本典寛、下田泰義

次いで以下の監事候補者について一人ずつ個別に承認が諮られ、何れも賛成60、反対0で承認可決された。

監事：内藤順造、岡本忠良、中島正喜

## 報 告

- (1) **報告第1号** 平成27年度事業計画と収支予算について  
尾形専務理事より資料に基づき、平成27年度の事業計画と収支予算について報告された。  
瀧本健常務理事より、事業計画の指導員養成講習会の日程変更等が修正され、修正版を追加書面で配布した。また、「山の日」制定記念事業について質疑があり、現在の入手情報を追加書面で配布した。
- (2) **報告第2号** 平成26年度日本山岳協会山岳共済会事業報告、収支決算報告及び平成27年度日本山岳共済会事業計画、収支予算について  
尾形専務理事より資料に基づき、平成26年度の事業報告と収支決算が報告され、続いて平成27年度の事業計画と収支予算が報告された。
- (3) **報告第3号** 平成27年度正会員について  
尾形専務理事より資料に基づき、平成27年度の新正会員が報告された。
- (4) **報告第4号** ネパール大地震救援募金について  
尾形専務理事より資料に基づき、ネパール大地震救援募金の取り組みと募金状況について報告された。  
尚、席上、福井県山岳連盟が行った「ネパール大震災！緊急写真パネル展」で集まった募金を牧野治生・福井県山岳連盟会長から神崎忠男会長に手渡された。
- (5) **報告第5号** 創立60周年記念事業募金の見直しについて  
尾形専務理事より資料に基づき、創立60周年記念事業募金について、ネパール大地震救援募金の兼ね合いで、1年遅らせて平成28年度から募ることが報告された。
- (6) **報告第6号** 第54回全日本登山体育大会（予報）について  
相澤岩男・宮城県山岳連盟会長より資料に基づき、実施概要が説明され、多くの参加を呼びかけられた。

# 平成26年度収支決算 (平成26年4月1日～平成27年3月31日)

## 貸借対照表

(単位：円)

科目	当年度 (H27/3/31)	前年度 (H26/3/31)	差異
<b>I 資産の部</b>			
1 流動資産			
現金・預貯金・郵便振替	42,616,466	33,840,848	8,775,618
未収入金	4,556,228	5,920,805	△ 1,364,577
前払費用	206,810	578,930	△ 372,120
流動資産合計	47,379,504	40,340,583	7,038,921
2 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産定期預金	30,000,000	30,000,000	0
基本財産合計	30,000,000	30,000,000	0
(2) 特定資産			
国民スポーツ登山振興基金	15,495,367	15,495,367	0
退職給付引当資産	1,836,240	1,836,240	0
特定資産合計	17,331,607	17,331,607	0
基本財産・特定資産合計	47,331,607	47,331,607	0
(3) その他固定資産			
機械器具	32,150	32,150	0
什器備品	79,275	237,825	△ 158,550
ソフトウェア	845,250	1,065,750	△ 220,500
電話加入権	43,989	43,989	0
その他固定資産合計	1,000,664	1,379,714	△ 379,050
固定資産合計	48,332,271	48,711,321	△ 379,050
資産合計	95,711,775	89,051,904	6,659,871
<b>II 負債の部</b>			
1 流動負債			
未払金	1,573,800	1,203,300	370,500
未払費用	2,909,010	3,059,683	△ 150,673
前受金	2,766,600	2,410,900	355,700
預り金	547,719	367,962	179,757
未払消費税等	650,800	0	650,800
賞与引当金	1,360,662	0	1,360,662
流動負債合計	9,808,591	7,041,845	2,766,746
2 固定負債			
退職給付引当金	5,249,000	3,892,000	1,357,000
固定負債合計	5,249,000	3,892,000	1,357,000
負債合計	15,057,591	10,933,845	4,123,746
<b>III 正味財産の部</b>			
1 指定正味財産			
指定正味財産合計	30,000,000	30,000,000	0
(うち基本財産への充当額)	(30,000,000)	(30,000,000)	0
2 一般正味財産			
一般正味財産合計	50,654,184	48,118,059	2,536,125
(うち特定資産への充当額)	(17,331,607)	(17,331,607)	(0)
正味財産合計	80,654,184	78,118,059	2,536,125
負債及び正味財産合計	95,711,775	89,051,904	6,659,871

その後、全国9ブロックでの「山の日」制定記念プレイベントの取り組み・計画について報告して頂いた。

以上をもって全ての議事の審議を終了したので、議長は13時30分閉会を宣した。

### [出席者]

神崎忠男会長、八木原暁明副会長、國松嘉仲副会長、佐藤旺副会長、尾形好雄専務理事、小野寺齊、西内博、仙石富英、森下健七郎、京才昭、水島彰治、瀧本健・各常務理事、相良忠麿、北村憲彦、増山茂、小野倫夫、高橋時夫、小宮山稔、永山義春、亀井正明、伊藤克己、小林弘之、宮崎良平、多田修・各理事、服部一雄（青森）、相澤岩男（宮城）、齋藤喜代志（秋田）、尾形一幸（福島）、二階堂章信（茨城）、喜内敏夫（栃木）、石倉昭一（埼玉）、蛭田伸一（千葉）、古屋寿隆（山梨）、阿部信一（新潟）、唐木真澄（長野）、高田和彦（石川）、牧野治生（福井）、滝田博之（静岡）、安藤武典（愛知）、木下喜代男（岐阜）、松田謙介（京都・代理）、中村久住（大阪）、中西研一（兵庫）、小比賀利雄（和歌山）、大西一俊（鳥取）、松本実（島根）、山崎裕晶（岡山）、木村康男（香川）、原秀樹（徳島）、峯本典寛（愛媛）、足達敏則（福岡）、下田泰義（長崎）、工藤文昭（熊本）、後藤利雄（大分）、古里亜夫（宮崎）、鮫島寛行（鹿児島）、雨宮節（沖縄）、前田善彦（高体連） 以上58名

(委任者) 吉村忠明（奈良）、青木秀則（常務理事）

(欠席者) 稲泉眞彦（山形）

### [同席者]

監事 内藤順造、岡本忠良、中島正喜

顧問 坂口三郎、瀧島清、国澤鎮雄、城隆嗣、田中文男、本木總子

委員長 西原斗司男・競技運営委員長

次期理事候補者 亀山健太郎、中瀬和徳

(記 尾形好雄)



ネパール大地震救援募金を手渡す牧野会長(右)

### 〈平成26年度協賛金各社一覧〉

マムート・スポーツ・グループ・ジャパン(株)、八海醸造(株)、キョウリン製菓ホールディング(株)、(株)ゴールドウイン、三井住友海上火災保険(株)、日本山岳遺産基金、(株)好日山荘、ラフマー・ミレー(株)、(株)スカイ・A、田中産業(株)、(株)モンベル、(公財)全国高等学校体育連盟、日本山岳協会山岳共済会、(株)アルテリア、ラ・スポルティバジャパン、エスエムジェイ、(株)ヨシキスポーツ、国際自然環境アウトドア専門学校、ピラミッドジャパン(株)、カモシカスポーツ横浜店 (敬称略、順不同)

(※平成26年度事業報告は誌面の都合で、次号に掲載します。)

# 正味財産増減計算書

# 財産目録

科目	当年度	前年度	差異
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	7,500	7,848	△ 348
基本財産受取利息	7,500	7,848	△ 348
特定資産運用益	4,330	3,982	348
特定資産受取利息	4,330	3,982	348
受取会費	14,286,000	14,415,000	△ 129,000
正会員受取会費	2,640,000	2,470,000	170,000
加盟分担金受取会費	9,074,000	9,203,000	△ 129,000
賛助会員受取会費(個人・団体)	2,572,000	2,742,000	△ 170,000
事業収益	110,070,230	78,188,840	31,881,390
共済委託事業収入	40,000,000	40,000,000	0
登録料	12,727,000	4,127,000	8,600,000
参加者負担金	32,509,137	23,204,950	9,304,187
協賛金	18,078,800	6,065,805	12,012,995
広告料	3,033,200	2,915,500	117,700
競技会収入	1,773,270	0	1,773,270
その他事業収益	1,948,823	1,875,585	73,238
受取補助金等	24,168,842	20,529,340	3,639,502
日本スポーツ振興センター委託金	2,900,000	2,900,000	0
日本オリンピック委員会助成金	4,310,000	3,416,000	894,000
国民体育大会補助金	6,069,092	4,791,440	1,277,652
日本体育協会助成金	2,013,750	2,750,900	△ 737,150
スポーツ振興くじ助成金	4,209,000	3,671,000	538,000
スポーツ振興基金助成金	4,667,000	3,000,000	1,667,000
受取負担金等	0	0	0
受取寄付金等	880,000	0	880,000
受取寄付金	880,000	0	880,000
雑収益	7,893	4,382	3,511
受取利息	7,893	2,432	5,461
雑収入	0	1,950	△ 1,950
経常収益計	149,424,795	113,149,392	36,275,403
(2) 経常費用			
事業費	120,015,057	94,762,107	25,252,950
給料手当	11,252,500	10,500,000	752,500
通勤費	842,317	913,729	△ 71,412
退職給付費用	933,615	1,475,145	△ 541,530
賞与引当金繰入	936,136	0	936,136
福利厚生費	814,869	179,963	634,906
会議費	1,169,050	1,812,617	△ 643,567
旅費交通費	41,280,927	30,561,566	10,719,361
通信運搬費	2,283,624	2,097,758	185,866
減価償却費	271,400	150,272	121,128
消耗品費	2,272,583	1,536,979	735,604
印刷製本費	8,632,388	7,740,784	892,054
光熱水料費	63,962	70,453	△ 6,491
賃借・リース料	10,827,985	3,899,863	6,928,122
保険料	1,153,459	1,152,057	1,402
諸謝金	12,184,396	13,266,063	△ 1,081,667
租税公課	487,863	56,364	431,499
大会施設修繕補助・助成金支出	4,021,343	0	4,021,343
支払負担金及び還付金	5,981,371	844,888	5,136,483
支払助成金及び事業交付金	3,680,000	5,930,000	△ 2,250,000
委託費	3,603,960	10,207,492	△ 6,603,532
現地サポート費用	3,299,388	0	3,299,388
大会記念品費	509,824	907,892	△ 398,068
大会賞金	2,990,736	1,180,000	1,810,736
報奨・奨励金	500,000	0	500,000
雑費	20,911	278,222	△ 257,311
管理費	26,873,613	22,037,713	4,835,900
役員報酬	180,000	60,000	120,000
給料手当	4,617,309	4,138,052	479,257
通勤費	381,981	360,101	21,880
退職給付費用	423,385	581,355	△ 157,970
賞与引当金繰入	424,526	0	424,526
福利厚生費	369,534	70,923	298,611
会議費	1,486,592	1,478,002	8,590
旅費交通費	7,859,739	7,644,253	215,486
通信運搬費	171,609	182,418	△ 10,809
減価償却費	107,650	45,028	62,622
消耗品費	111,787	129,631	△ 17,844
印刷製本費	1,265,531	1,482,067	△ 216,536
光熱水料費	11,138	10,689	449
賃借・リース料	778,829	708,786	70,043
支払会費	2,144,215	2,316,359	△ 172,144
保険料	58,734	58,734	0
租税公課	190,337	22,356	167,981
支払負担金及び還付金	4,143,800	1,253,300	2,890,500
交際費	285,350	407,766	△ 122,416
支払報酬	158,000	334,112	△ 176,112
手数料	496,601	415,015	81,586
IT関連	1,157,762	260,141	897,621
雑費	49,204	78,625	△ 29,421
経常費用計	146,888,670	116,799,820	30,088,850
評価損益等調整前当期経常増減額	0	0	0
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	2,536,125	△ 3,650,428	6,186,553
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
指定正味財産から振替額	0	20,000,000	△ 20,000,000
当期一般正味財産増減額	2,536,125	16,349,572	△ 13,813,447
一般正味財産期首残高	48,118,059	31,768,487	16,349,572
一般正味財産期末残高	50,654,184	48,118,059	2,536,125
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	△ 20,000,000	20,000,000
指定正味財産期首残高	30,000,000	50,000,000	△ 20,000,000
指定正味財産期末残高	30,000,000	30,000,000	0
III 正味財産期末残高	80,654,184	78,118,059	2,536,125

平成27年3月31日現在 (単位:円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
現金・貯預金・郵便振替			42,616,466
現金	手元保管	日常の小口資金として	323,589
流動資産	当座預金	日常の入出金口座	6,474,885
	みずほ銀行渋谷支店		
	普通預金		13,748,472
	みずほ銀行渋谷支店	日本スポーツ振興センター助成金入金口座	1,724,776
	3382463		
	みずほ銀行渋谷支店	免税口座	11
	3382501		
	みずほ銀行渋谷支店	日本オリンピック委員会補助金入金口座	4,099,846
	3382536		
	みずほ銀行渋谷支店	日本体育協会補助金入金口座	6,235,868
	3382447		
	三菱東京UFJ渋谷明治通支店	日本スポーツ振興くじ補助金入金口座	582,141
	3788361		
三菱東京UFJ渋谷明治通支店	定期預金利息入金	716,445	
3780203			
みずほ銀行渋谷支店	国民スポーツ登山振興基金利息	67,639	
8017119			
みずほ銀行渋谷支店	中高年安全登山指導者講習会	119,545	
1323253			
みずほ銀行渋谷支店	24年度ワールドカップ印西大会	202,201	
2550591			
ゆうちょ銀行郵便振替		2,069,520	
0110-5-546693	一般会計入出金用	1,178,526	
0110-8-407261	指導関係入出金用	890,994	
定期預金			
みずほ銀行渋谷支店	当法人の事業資金	20,000,000	
6078990			
未収入金			4,556,228
日本スポーツ振興センター	26年度スポーツ振興くじ助成金	1,209,000	
日本スポーツ振興センター	26年度スポーツ振興基金	1,667,000	
大会参加料	26年度ワールドカップ	240,000	
選手登録料	26年度選手登録料	357,000	
登山月報広告掲載料	541号～552号、3件	388,800	
協賛金	2015ミレーカップ、ラファミレー	540,000	
協賛金	ボルドア/リグジャパンカップ、博報堂	108,000	
事業費精算戻し金	那須甲子雪遊び隊	46,428	
前払費用		206,810	
	賠償責任保険料	27年度分、三井住友海上火災	206,810
流動資産合計			47,379,504
(固定資産)			30,000,000
基本財産			30,000,000
基本財産定期預金	みずほ銀行渋谷支店 6078982	当法人の基本財産	30,000,000
特定資産			17,331,607
国民スポーツ登山振興基金	三菱東京UFJ渋谷明治通支店 定期預金3780203	国民スポーツ登山振興基金特別会計	15,495,367
退職給付引当資産	みずほ銀行渋谷支店 定期預金6078974	職員の退職金支払に備えたもの	1,836,240
その他固定資産			1,000,664
機械器具	パソコン、ロードセル、プロジェクター	事務局用	32,150
什器備品	書庫	事務局用	79,275
ソフトウェア	選手登録データベース構築費用	選手登録用	845,250
電話加入権	03-3481-2396	事務局用	43,989
固定資産合計			48,332,271
資産合計			95,711,775
(流動負債)			1,573,800
未払金			1,573,800
選手登録還付金	26年度分岳連協会還付金	1,018,800	
自然保護還付金	26年度分岳連協会還付金	114,500	
審判員登録料還付金	26年度分岳連協会還付金	164,500	
参与通信費	26年度分岳連協会還付金	276,000	
未払費用		2,909,010	
大会費用	BJC大会タイトルバーナー製作費	405,000	
IT関連費	ネットワークグレードアップ	281,944	
大会記念品	日本ユースメダル制作費	60,000	
大会施設費用	日本ユース施設製作費	80,000	
旅費交通費	日本ユース	1,050,530	
旅費交通費	那須甲子雪遊び隊	172,010	
印刷製本費	日本ユースプログラム	57,128	
事業費	レスキュー雪崩教育プログラム使用料	96,000	
事業費	日本ユースドレーピング検査料	706,398	
前受金		2,766,600	
月報購読料	27年、28年分	2,600	
大会参加費	27年度山岳スキー大会参加費	424,000	
自然保護登録料	27年度分	416,000	
選手登録料	27年度分	1,912,000	
参与会費	27年度分	12,000	
預り金		547,719	
給与源泉所得税	3月分	51,100	
謝金源泉所得税	3月分	447,478	
雇用保険料	3月分	49,141	
未払消費税等		650,800	
消費税等納付見込み額		650,800	
賞与引当金		1,360,662	
職員の賞与支給見込み額		1,360,662	
流動負債合計			9,808,591
(固定負債)			5,249,000
退職給付引当金		職員員の退職金支払に備えたもの	5,249,000
固定負債合計			5,249,000
負債合計			15,057,591
正味財産			80,654,184

## 理事会(第1回)報告

5月16日(土)に東京・岸記念体育会館で平成27年度理事会(第1回)が開催され、総会議案等について審議された。

先ず、神崎忠男会長の挨拶に続いて、定款第32条第1項の規定により、神崎会長を議長に選出して議事に入った。

議事の前に議事録署名人として定款第34条第2項の規定により、神崎会長、内藤順造・岡本忠良・中島正喜各監事を選出。

### 議事

(1)議案第1号 平成26年度事業報告(案)について

議案第1号は、賛成21、反対0で承認された。

(2)議案第2号 平成26年度収支決算(案)について

小野寺常務理事の議案説明の後、内藤順造監事より監査報告が行われた。特別事業の3事業個別の収支決算について質疑があった後、議案第2号は、賛成21、反対0で承認された。

(3)議案第3号 定款の一部変更(案)について

副会長を4名にする理由について質疑があった後、議案第3号は、賛成21、反対0で承認された。

(4)議案第4号 理事及び監事候補者推薦の承認について

次期役員候補者推薦の説明が行われ、次期会長候補者の健康状態や会長の出番を調整して負担を軽減することなどの質疑の後、以下の役員候補者の推薦は、何れも賛成21、反対0で承認された。

〈理事候補者〉八木原罔明、尾形好雄、國松嘉伸、高橋時夫、亀山健太郎、小野寺斉、西内博、仙石富英、森下健七郎、京才昭、水島彰治、瀧本健、小宮山稔、相良忠麿、北村憲彦、増山茂、中瀬和徳、小野倫夫、齋藤喜代志、牧野治生、亀井正明、伊藤克己、大西一俊、峯本典寛、下田泰義

〈監事候補者〉内藤順造、岡本忠良、中島正喜

(5)議案第5号 正会員の入会承認について

稲泉眞彦(山形県山岳連盟会長)、下田泰義(長崎県山岳連盟会長)、古里亜夫(宮崎県山岳連盟会長)の正会員入会が何れも賛成21、反対0で承認された。

(6)議案第6号 参与推薦の承認について

群馬県山岳連盟より推薦のあった齋藤長作氏の参与推薦が、賛成21、反対0で承認された。

(7)議案第7号 賛助会員(個人)の入会承認について

参与に推薦された齋藤長作氏の賛助会員入会は賛成21、反対0で承認された。

大森俊氏については、次回理事会に諮ることで了承された。

(8)議案第8号 クライミングルートセッター規程の一部改定(案)の承認について

条文の文言、公認ルートセッターの名称、ルートセッター資格の種類と中身、ルートセッターの報酬、ルー

トセッター認定料などの質疑の後、議案第8号は一部加筆訂正を条件に、賛成21、反対0で承認可決された。

(9)議案第9号 日本山岳協会山岳共済会規程の一部改定(案)について

(10)議案第10号 日本山岳協会山岳共済会運営委員会規程(案)について

共済会規程第3条の定義について、質疑があり、議案第9号と議案第10号は、共済会規程を再度見直して、次回理事会で審議することになった。

(11)議案第11号 スポーツクライミング日本代表チームに関わる規程(案)について

スポーツクライミング日本代表チームに関わる規程、行動規範、ユニフォーム等運用内規について説明が行われ、議案第11号は、一部加筆訂正を条件に、賛成21、反対0で承認可決された。

### 報告

尾形専務理事より以下の報告事項が説明され、出席理事全員が了承した。

(1)報告第1号 平成26年度山岳共済会事業報告及び収支決算報告について

(2)報告第2号 ネパール大地震救援募金について

(3)報告第3号 創立60周年記念事業募金の見直し(ネパール大地震救援募金により募金開始を1年延期する)について

(4)報告第4号 クライミング公認ルートセッター規程に関する内規の変更について

以上をもって全ての議事の審議を終了したので、議長は15時00分、閉会を宣した。

## 理事会(第2回)報告

5月31日(日)の定時総会終了後に岸記念体育会館で平成27年度理事会(第2回)が開催された。

先ず、定款第22条第2項の規定により、選任された理事の中から出席理事全員一致で八木原罔明氏を会長に選定した。

次いで八木原会長の挨拶に続いて、定款第32条第1項の規定により、八木原会長を議長に選出して議事に入った。

議事の前に議事録署名人として、定款第33条第1項の規定により、八木原会長、内藤順造・岡本忠良・中島正喜各監事を選出。

### 議事

(1)議案第1号 業務執行理事の互選と管掌業務について  
議案第1号は、本誌13頁記載のとおり役員の方掌業務が賛成25、反対0で承認可決された。

(2)議案第2号 正会員の入会承認について

亀山健太郎(東京都山岳連盟会長)、中瀬和徳(全国高等学校体育連盟登山専門部)の正会員入会が諮られ、何れも賛成25、反対0で承認された。

(3)議案第3号 顧問の推薦について

神崎前会長の顧問推薦が諮られ、賛成25、反対0で承認された。

**(4)議案第4号 参与の推薦について**

東京都山岳連盟より推薦のあった佐藤旺氏の参与推薦が諮られ、賛成25、反対0で承認された。

**(5)議案第5号 賛助会員の入会承認について**

参与に推薦された佐藤旺氏の賛助会員入会諮られ、賛成25、反対0で承認された。

**(6)議案第6号 日本山岳協会山岳共済会規程の一部改定(案)の承認について**

**(7)議案第7号 日本山岳協会山岳共済会運営委員会規程(案)の承認について**

議案第6号及び第7号は、一部条文訂正で、賛成25、反対0で承認された。

**(8)議案第8号 平成27年度収支予算に係る付帯決議について**

補正予算に係る事項については、賛成25、反対0で承認された。

**(9)議案第9号 平成27年度理事会(第1回)議事録承認について**

議事録承認が諮られ、異議無く賛成25、反対0で承認された。

**報告**

**(1)報告第1号 個人賛助会員入会申込みの報告について**

理事会(第1回)で賛助会員の入会が保留とされた案件について報告があった。

以上をもって全ての議事の審議を終了したので、議長は15時40分、閉会を宣した。

(記 尾形好雄)

**平成27年度新役員及び担務**

氏名	役職	担務
八木原 罔明	会長	
尾形 好雄	副会長 専務理事	総括(財政、人事、渉外、国際、共済)
國松 嘉仲	副会長	総務(組織、管理、法務、広報)
高橋 時夫	副会長	競技(競技、技術、選手強化)
亀山 健太郎	副会長	登山(指導、普及、遭難対策、自然保護、医学)
小野寺 育	常務理事	総務部長・事務局長(総務部統括、財政、国際)
西内 博	常務理事	登山部長(登山部統括、遭対)
仙石 富英	常務理事	登山副部長(普及、ジュニア、自然保護)
森下 健七郎	常務理事	競技部長(競技部統括)
京 才昭	常務理事	競技副部長(競技運営)
水島 彰治	常務理事	総務(広報、共済)
瀧本 健	常務理事	登山(指導、デジタル情報)
中瀬 和徳	常務理事	登山(高体連、ジュニア、普及)
相良 忠麿	理事	総務(財政、共済)
北村 憲彦	理事	総務(組織、企画)
増山 茂	理事	登山(医学)
小野 倫夫	理事(北海道)	登山(遭対、普及)
齊藤喜代志	理事(東北)	競技(競技運営)
小宮山 稔	理事(関東)	総務(企画)
牧野 治生	理事(北信越)	登山(普及)
亀井 正明	理事(東海)	登山(遭対)
伊藤 克己	理事(近畿)	登山(高体連)
大西 一俊	理事(中国)	登山(指導)
峯本 典寛	理事(四国)	競技(競技運営)
下田 泰義	理事(九州)	競技(競技運営)
内藤 順造	監事(山梨)	
岡本 忠良	監事(岡山)	
中島 正喜	監事(税理士)	



平成27年度5月(27年5月)  
常務理事会報告

**日時** 平成27年4月30日(休)

17時45分～21時

**場所** 岸記念体育会館103号室

**出席者** 神崎会長、八木原・國松副会長、尾形専務理事、小野寺、西内、仙石、森下、京才、瀧本、青木各常務理事、中島監事

**委任** 佐藤副会長、水島常務理事  
(常務理事13名中11名出席)

**1. 議事**

(1)平成27年度4月常務理事会議事録の承認について

(一部加筆訂正で承認された。)

(2)平成27年度理事会(第1回)議案について(一部議案の加筆で承認された。)

(3)平成26年度事業報告(案)について(「総括」の一部文言を整理することを条件に理事会資料とすることが承認された。)

(4)平成26年度収支決算報告(案)について

(中島監事より「財務諸表に対する注記」のスポーツ振興くじ助成金の当期末残高の修正が指摘され、それを訂正して理事会資料とすることが承認された。)

(5)定款変更(案)について

(尾形専務理事より次期役員改選に伴い、「副会長を4名以内」とする定款変更(案)が説明され、理事会議案とすることが承認された。)

(6)次期理事候補者推薦(案)について

(尾形専務理事より先ず、会長・副会長推薦委員会からの報告を基に会長1名、副会長4名の推薦が諮られ、提案通り理事会に推薦することが承認された。次いで役員候補者推薦委員会からの報告を基に、ブロック代表理事を除く理事11名(内10名は重任)の推薦が諮られ、提案通り理事会に推薦することが承認された。)

(7)次期監事候補者推薦(案)について

(尾形専務理事より、役員候補者推薦委員会からの報告を基に、監事3名(何れも重任)の推薦が諮られ、提案通り理事会に推薦されることが承認された。)

(8)クライミング・ルートセッター規程の改定(案)について

(4月常務理事会で差し戻された規程改定(案)について森下常務理事より競技部での協議経過と見解について説明があり、再度、規程改定(案)が諮られ、理事会議案とすることが承認された。)

(9)クライミング・ルートセッター規程内規の改定(案)について

(森下常務理事より議事(8)に伴う規程内規の改定(案)が諮られ、承認された。)

(10)日本山岳協会山岳共済会規程の一部改定(案)及び山岳共済会運営委員会規程(案)について

(尾形専務理事より3月8日開催の理事会(第4回)で説明した2つの規程(案)を理事会に諮る件について提案されて承認された。)

(11)キルギス山岳会「Mountain Spirit Project 2015」の派遣及びバグダット登山派遣について

(キルギス山岳会から派遣要請のあったレーニン登山について、国際委員会より推薦のあった犬塚智之(早稲田大学山岳部)、大西美幸(愛知県労山)と取材班として安東浩正

の派遣が諮られ、承認された。尚、安東はその後、本人事情により取り止めたので、派遣は2名のみとなった。イラン山岳会から派遣要請のあったデマバンド登山については、応募のあった鈴木将太(法政大学ワンダーフォーゲル部)について常務理事にメールで回議し、異議無く承認された。

(12)報告事項

ア 平成26年度山岳共済会事業報告及び収支決算報告について(尾形専務理事より、理事会資料に供する標記報告がなされた。)

イ スポーツ安全協会評議員の推薦について(尾形専務理事より、次期副会長候補者を推薦することが報告された。)

ウ 参与の推薦について(尾形専務理事より、群馬県山岳連盟から推薦のあった齋藤長作氏を理事会に諮ることが報告された。)

エ 賛助会員の入会について(尾形専務理事より、賛助会員の入会申し込みのあった齋藤長作、大森俊の両氏の入会承認を理事会に諮ることが報告された。)

オ ネパール大地震救援募金について(尾形専務理事より、ネパール大地震救援募金の山岳6団体の取り組みについて報告された。)

カ 日本選手権について

(森下常務理事より、開催延期となった日本選手権大会について、平成28年1月以降の開催を検討していることが報告された。)

2. 後援、協賛等の依頼について

(1)「認定国際山岳医講習会」の後援名義使用(日本登山医学会主催)(回答済み)

(2)中部4県「山のグレーディング」に関する協力について(長野県)(承認)

(3)「第16回KAZOクライミングカップ2015」の後援名義使用(埼玉県山岳連盟主催)(回答済み)

(4)「第8回コバトンボルダリングカップ2015」の後援名義使用(埼玉県山岳連盟主催)(回答済み)

3. 日誌(4月10日~4月29日)

(1)UIAA登山委員会 4月10日(金)~11日(土) 於:関西大学高槻キャンパス 神崎会長、小野寺・西内常務理事

(2)会長・副会長推薦委員会(第2回) 栗飯原顧問、内藤監事、相良・北村理事、尾形専務理事、(神崎会長、八木原副会長)

(3)第70回和歌山国体第1回基準会議 4月18日(土)~19日(日) 於:和歌山県みなべ町 森下常務理事、西原・山本・小日向各委員長

(4)遭難対策常任委員研修会 4月18

日(土)~19日(日) 於:埼玉県県民活動総合センター伊奈 西内常務理事

(5)平成27年度第1回JOC-NF強化関係・連携会議 4月20日(月) 於:岸記念体育会館 小野寺常務理事、中川事務局

(6)役員候補者推薦委員会(第1回) 4月20日(月) 於:岸記念体育会館 田中顧問、八木原副会長、尾形専務理事、森下常務理事(神崎会長、内藤会長・副会長推薦委員会委員長)

(7)春の園遊会2015 4月21日(火) 於:赤坂御苑 田中顧問

(8)渡邊雄二前国立登山研修所所長退官慰労会 4月21日(火) 於:新宿・中村屋 神崎会長、尾形専務理事、小野寺常務理事

(9)平成27年度日体協加盟団体事務局長会議 4月22日(水) 於:シダックスホール2 Eホール 小野寺常務理事

(10)全国「山の日」協議会運営委員会 4月22日(水) 於:日本山岳ガイド協会事務局 尾形専務理事

(11)監査 4月23日(木)~24日(金) 於:岸記念体育会館 神崎会長、内藤・岡本・中島監事、尾形専務理事、小野寺常務理事、相良理事

(12)氷雪技術研修会 4月25日(土)~26日(日) 於:富士山 瀧本常務理事ほか

(13)慶応義塾体育会山岳部創部100周年記念会 4月26日(日) 於:帝国ホテル 神崎会長、八木原副会長

(14)田部井淳子氏エヴェレスト登頂40周年記念パーティ 4月27日(日) 於:ネパール大使公邸 神崎会長、八木原副会長、小野寺常務理事

(15)ネパール大地震災害募金打ち合わせ 4月28日(火) 於:スポーツマンクラブ 神崎会長、尾形専務理事、小野寺常務理事

寄贈図書

寄贈本	一等三角点研究会 山と溪谷社	「登山案内 一等三角点全国ガイド」 「日本の森列伝」米倉久邦 著
雑誌	山と溪谷社 (株)ネイチュアエントープライズ NPO日本トレーニング指導者協会 三峰山岳会 玲峰グループ (一財)日本万歩クラブ 横浜山岳会 中華民国山岳協會 (公社)全日本ボウリング協会 (公財)健康・体力づくり事業財団 La rivista del Club alpino italiano (公社)日本武術太極拳連盟 (公財)日本体育協会 日本勤労者山岳連盟 (株)スクールパートナーズ FEEC 日本フリークライミング協会 (公社)日本山岳会 (公社)日本山岳会 (公財)日本体育協会 Korean Alpine Club 東京野歩路会 新潟県山岳協會 おいらく山岳会 (公財)植村記念財団	「山と溪谷」No.962 2015JUNE 「岳人」No.816 2015 June 「JATI EXPRESS」Vol.46 「岩つばめ」347号 「玲峰誌」84号 「帰れ自然へアルク」2015 6・7 月刊「山」995号 「中華山岳」246 「JBC news」第522号 「健康づくり」No.445 「Montagne360」maggio 2015 「武術太極拳」2015.5.10. No.307 「SPORTS JAPAN」2015.5.6 vol19 「登山時報」No.484 2015.6 「高校生新聞・高校生スポーツ」5月号 「VERTEX」259 「Free Fan」# 071 2015 Spring 「山」No.840 「JAPANESE ALPINE NEWS」Vol 16 「体協スポーツニュース・体協フェアプレイニュース」2015年5月18日号 「大山聯」Vol.197 「山嶺」No.1023 「新山協ニュース」第317号 「山行手帖」No.666 「アドベンチャー・フォーラム」第42号・第43号

編集後記

関東で梅雨入り、今年の今頃は「山の日」祝日制定の話題で盛り上がっていたがプレの今年はいまいちの様な気がする。JMA傘下岳連(協会)のイベントで国民に祝日歓迎のムードが広がることを期待する。記念日に相応しく毎年実施出来るようなアイデアがあれば本紙に寄稿願います。待っています。(広報担当 水島彰治)

登山月報 第555号

定価 110円(送料別)  
 予約年間 1,300円(送料共)  
 昭和45年12月12日  
 第三種郵便物認可  
 (毎月1回15日発行)  
 発行日 平成27年6月15日  
 発行者 東京都渋谷区神南1-1-1  
 岸記念体育会館内  
 公益社団法人日本山岳協会  
 電話 03-3481-2396  
 FAX 03-3481-2395

NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980  
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

蛭ヶ岳山荘 TEL:090-2252-3203(衛星電話)

神の川ヒュッテ TEL:042-787-2276

和田峠「峠の茶屋」TEL:042-687-2882

ユージンロッジ安全管理 TEL:042-687-4011

理事長・代表 杉本憲昭

NPO法人 北丹沢山岳センター

神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980  
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

○北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会

○陣馬山トレイルレース実行委員会

○八重山トレイルレース実行委員会

○東丹次宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会

○上野原秋山トレイルレース実行委員会  
 ○陣馬高尾ムーンナイトトレイルレース実行委員会  
 大会々長 杉本憲昭

山岳  
雑誌

# 岳人

山と人、  
時代をつなぐ  
「がくじん岳人」。

ひとたびページをめくると、先鋭的な現役クライマーから、散策を楽しむ登山愛好者、一線を退いた往年の登山家まで、“岳”を愛するすべての人々の想像力と冒険心をかきたてる、そんな存在でありたい。山の魅力や楽しさ、そこで生まれた文化を伝え、山と人との関係をより良いものにしたい、そんな思いを込め「岳人」をお届けします。

## 年間購読がおすすすめです。

購読割引

送料無料

限定品プレゼント

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常本体価格12冊

8,160円  
(税込8,812円)

年間購読12冊

7,480円  
(税込8,078円)

1年間で680円  
1冊分無料

年間購読  
特典



岳人 マグカップ  
をプレゼント!



7月号  
6/15発売

「岳人」7月号

【特集】山岳トレイル

【好評連載】夢枕 獺「神々の山嶺」創作ノート  
／フリチョフ・ナンセン「グリーンランド初横断」  
／石川直樹「まれびと」／秘境探訪 ほか

本体価格 680円  
★モンベルのウェブ  
サイト、全国のモン  
ベルストアや書店  
にて発売中!

年間購読  
お申し込み方法

●ウェブサイトで

<http://www.gakujin.jp>

●お電話で(受付後に振込用紙をお送りします)

☎ 0120-982-682 / TEL 06-6538-5797

※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

●全国のモンベルストアで

<http://store.montbell.jp>

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上



三井住友海上の安心

# GK

[www.ms-ins.com](http://www.ms-ins.com)

# 山岳保険の加入は 登山者のマナーです。

あなたの山岳保険は、大丈夫ですか？

## ■平成25年山岳遭難の概況

(警察庁生活安全局地域課 平成26年6月12日)

発生件数 **2,172** 件 (前年対比 184件増)

遭難者数 **2,713** 人 (前年対比 248人増)

死者・行方不明者 **320** 人 (前年対比 36人増)

詳しくは → <http://www.sangakukyousai.com>

お問い合わせは

**日本山岳協会 山岳共済会**

事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター  
月～金 10:00～17:00 (土・日・祝日除く)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707  
TEL: 03-5958-3396 FAX: 03-5958-3397  
E-mail: [sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp](mailto:sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp)  
U R L : <http://sangakukyousai.com>